

集中治療部

1 構成員

	平成15年3月31日現在
教授	0人
助教授	0人
講師（うち病院籍）	1人（1人）
助手（うち病院籍）	2人（2人）
医員	2人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技官（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	0人
合 計	5人

2 教官の異動状況

- 土井 松幸（講師）（H5. 8. 1～現職）
 望月 利昭（助手）（H12. 10. 1～現職）
 杉 敏彦（助手）（H13. 6. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成14年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	1編（1編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	2編（1編）
そのインパクトファクターの合計	3.38

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 土井松幸：心拍出量測定装置の特徴および総評．救急・集中治療 15: 331-343, 2003
インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 仁科雅良，川辺昭浩，白井正浩，漆田 毅，竹内 豊，土井松幸，望月利昭，中田 純，高橋 聡：急性腎不全を合併したマムシ咬傷の1例．救急医学 27: 249-252, 2003

2. Taiga Itagaki, Matsuyuki Doi, Shigehito Sato, Shigeru Kato: Skin burn caused by operating light during a long operation after photodynamic therapy. Anesthesiology 98: 1011-3, 2003
インパクトファクターの小計 [3.381]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成14年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成14年度
(1) 文部科学省科学研究費	1件 (60万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (万円)
(4) 財団助成金	0件 (万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0件 (万円)

(1) 文部科学省科学研究費

基盤研究（C）：皮質脳波と聴性誘発電位を入力信号とする鎮静薬、鎮痛薬の自動投与システムの開発

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	1件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	1件
(6) 一般演題発表数	3件	

(1) 国際会議等開催・参加：

4) 一般発表

口頭発表

M Doi, K Morita, S Sato, H Mantzaridis, GNC Kenny: Effects of profound hypothermia on EEG variables. 13th European Society for Computing and Technology in Anaesthesia and Intensive Care. October 3, 2002, チューリッヒ（スイス連邦）

ポスター発表

J Nakata, S Kato, M Doi, T Mochizuki, S Sato: Effects of nafamostat mesilate on hypercytokinemia after head and neck tumor resection. Annual meeting of American Society of Anesthesiology. October 13-17, 2002, オランダ, アメリカ合衆国

Hideki Sano, Matsuyuki Doi, Toshiaki Mochizuki, Yoshiki Nakajima, Yoshimistu Sanjo, Shigehito Sato: Evaluation of intra-operative changes of plasma ionized magnesium concentration. 日中医学大会2002, November 3-5, 2002, 北京, 中華人民共和国

(2) 国内学会の開催・参加

2) シンポジウム発表

土井松幸：パネルディスカッション「鎮静・鎮痛薬の投与に定量的指標はあるか」聴性誘発電位による評価の実際。第9回日本静脈麻酔・Infusion Technology 研究会, 11月2日, 2002

5) 役職についている学会名とその役割

土井松幸：日本麻酔・集中治療テクノロジー学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリース数は除く）	0件	0件

(3) 国内外の英文雑誌のレフリース

土井松幸：2回, Journal of Clinical Anesthesia (アメリカ合衆国)

9 共同研究の実施状況

	平成14年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	2件

(3) 学内共同研究

光テクノロジーを利用した血中微量物質の連続的定量法の開発, 光量子医学研究所
大侵襲手術後の主要臓器機能不全症におけるPAI-1遺伝子多形の関与の検討ならびに治療法の考察, 第二生理学

10 産学共同研究

	平成14年度
産学共同研究	0件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 光テクノロジーを利用した血中微量物質の連続的定量法の開発

学術振興会科学研究費，萌芽的研究の2年目。光ファイバーカテーテルに複数波長の光を送り吸光，蛍光の情報を解析して血中微量物質を連続的に定量する装置を開発した。

2. 大侵襲手術後の線溶抑制状態の解明と治療法の開発

頭頸部大侵襲手術，心臓外科手術後のplasminogen activator inhibitor-1が著しく上昇し線溶抑制状態となることが明らかとなった。蛋白分解酵素阻害薬，メシル酸ナファモスタットに治療効果が認められた。

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

1. 光テクノロジーを利用した血中微量物質の連続的定量法の開発

光テクノロジーを利用して血中微量物質を連続定量する試みは他でなされていない独創的な研究テーマである。H15年度以降に臨床応用できるよう研究を継続する。

15 新聞，雑誌等による報道